

## タウンミーティング記録

記録：秘書広報課

日時	令和2年10月27日 19時00分～ 20時30分		
場所	はりま一宮小学校体育館	参加者数	計 59 人
出席者	福元市長、佐竹院長、中村副市長、隅岡参事、前田部長、坂根参事、世良部長、三木次長、一宮市民局 上長局長 司会：水口次長 プレゼン：船曳次長 事務局：岩路、植田、小椋、斉藤(一宮市民局)橋本副局長、田路副課長		
参加者	産婦人科など少子化対策に特化した新病院のありかたを考えてもらいたい。		
佐竹院長	周産期医療は、当院の重要な役割の一つです。将来においても周産期医療が維持できることが重要で重きを置くのが当然であると考えます。地域で子供が産めなくなった場合には、人口流出を止められず地域が維持できなくなり、医療というよりも地域の死活問題に関わることとなります。周産期医療を守る方向に全力を挙げてやっていくつもりです。		
参加者	先行取得された場所の件だが、宍粟市の一番南でちょっと遠い。土地の確保というのは、そこしかなかったのか。別の場所が可能性としてあったのか。		
福元市長	今おっしゃったとおり先行取得で用地を取得させていただきました。 結論から申し上げます、土地に非常に有効性があるという判断をさせていただいてその土地に決めさせていただきました。というのは、正直あれだけの広大な土地は、今後のことを含めて求めていくのは非常に難しい状況でもあったため、そういう観点で用地を取得させていただきました。 それから2点目の宍粟市の1番南じゃないかということなんですが、具体的な計画の中でも確かに今より遠くなりますが、利便性の問題で、例えば、公共機関はどうやったらそこに乗り入れていくとかのアクセスの問題を今後の課題として十分検討していく中で、利便性を高めていきたいと考えております。 ご質問にはなかったのですが、先ほど佐竹院長先生がおっしゃったように、県が姫路市に新しく建てられる「はりま姫路総合医療センター」、そういうところとの役割分担の中で、この播磨全体の中核病院、そういう意味でこれから連携強化しながら、それぞれの病院の役割を担っていきましょうということです。宍粟市の皆さんにとって利便性をどうやって確保していくか、議論を深めながら、課題解決に当たっていきたいと考えていますので、ご理解いただきたいと思います。		
参加者	北部には現在一軒だけ医院があり、その先生に1週間四六時中も頑張ってもらっている状態。北部に一次の医療施設をつくっていただけることで、大変期待している。その開設時間の日数だが、新しい第一次の病院については総合病院のほうから派遣されると聞いているが、どれぐらいの診療をしていただけるか。仮に中学校の事故とかがあった場合、その施設で一次の対応がしていただけるかどうか。		

福元市長	<p>今おっしゃったとおり、北部地域については、先生に長い間頑張っていただいています。いずれにしましても色々な兼ね合いがあるというのは事実です。</p> <p>したがって、何とか北保育所跡地を使わせていただいて、そこにその機能を少しでも補足できるようにということで、来年の10月を目途に、今準備を進めさせていただきます。</p> <p>新聞では、具体的に総合病院から派遣ということですが、今後については、いろいろと具体的に検討させていただいてという状況で、じゃあ週何日来ていただくというところや、医師の加増の問題も、現状では具体的などころまでは至っていないということで御理解いただきたいと思います。</p> <p>ちなみに波賀の診療所も御存じかと思いますが、常駐していただいていたところではありますが、去年からはなかなか厳しい状況の中で、現段階では、総合病院から、半日ですが、いろいろな事情の中で、週三日お世話になっている状況です。</p> <p>そんなことも含めながら、今後のありようにつきましてはこれから具体的に進めさせていただきます。</p>
参加者	<p>今開業されている先生は病院に通えない高齢者の往診をされ、厚い信頼関係を築かれている。今後、我々が受けているサービスが果たして維持できるのかどうか。</p>
世良部長	<p>ドクターの部分については今市長のほうからあったとおりで、なかなかこの場で、週5日、毎日先生に診療していただけるような体制を整えますという返事はしにくい状況かなと思っておりますが、ちなみに、少し医師の状況というのをここで報告をさせていただきたいと思っております。</p> <p>一般診療所というのが、全国には約10万か所ございます。</p> <p>そういう中で、人口10万人当たりで、全国には大体、81人の医師、81か所の診療所があるわけですが、宍粟市では59か所あります。これを市内で当てはめると、山崎だと、69か所。人口10万人に対して69の診療所になるんですが、一宮北になりますと、1人1か所の診療所なので32という数字。非常に少ない状況です。</p> <p>この1か所がなくなると、本当に厳しい状況であるということは我々も大きな課題としてとらえております。</p> <p>何より、先ほどの御質問の裏には、「高齢者の方が『いよいよ最期のときにどうされるのか』不安がっておられる」ということがあるのではないかと思います。我々もそこが1番課題であるというふうに考えております。今、宍粟市では訪問看護も充実させているんですが、今、ICTでそういったところも看護師で対応できるような状況も整ってきております。その辺りも今後、一宮北の診療所の先生の配置とあわせて、何とか地域の皆さんがそういった不安を持って生活することがないように、それまでは今の先生に何とか頑張っていただきながら、市の体制を整備していきたいというふうに考えておりますので、御理解をよろしくお願いいたします。</p>
参加者	<p>大変心強い返事をいただき、期待しています。どうかよろしく申し上げます。</p>
参加者	<p>現在、1人の先生の病院でずっと面倒見ていただいて、地域の皆さんはその先生がおやめになったらどうしよう、という先々の心配をもって毎日暮らしていらっし</p>

	<p>やると思う。</p> <p>新聞に、診療所開所が決まりましたという話が出た。地域の核になる医療というのは1番大事なことでとても期待が大きい。北部では、高齢者の方、介護、見守りをされてる方がたくさんおられる。また若い方は、子どもさんの成長を見守り、その子どもさんのことについても、医療関係で不安が大きいと思う。そういうことについて、いろいろと総合病院と相談してくださっているということは今日の話聞いてよくわかった。</p> <p>私たちも、地域をあげて応援したいと思いますので、ぜひ前向きに意向を酌んで、何とか良い話になりますように、よろしくお願いします。</p>
世良部長	<p>先ほど市長のお話がありましたが、波賀診療所の常勤の先生が、昨年3月に退職された。次の先生を一般公募できるんですが、宍粟の僻地の診療所に勤めようという先生はなかなかいらっしゃいません。全国的にそういう傾向だということは御理解いただけたと思います。</p> <p>そのため、佐竹院長に何とかお願いし、今、週3日の半日、総合病院から先生に来ていただいている状況です。</p> <p>先ほどの説明にありましたように総合病院も、一般の患者さん、入院患者さんを診ていただく中で、週3日半日来ていただいている状況です。何とか今後、一宮北部の医療施設について、同じような形でもう少し、先生方に助けていただけないかとお願いしているところですが、それだけではなく、手立てとして別の病院の先生に来ていただけないかというようなことも、今、あちこちお願いしている状況です。皆さんの不安が少しでも解消できるように頑張ってもらいたいと考えておりますので、よろしくお願いします。</p>
参加者	<p>①これからどういった形で、北部で診療されるのか。</p> <p>せめて、現在開業中の先生の診療のような月火水、木曜日休みで、金曜日、土曜日の午前中というふうにその間に往診をしておられる。この現状を維持していただきたい。</p> <p>②これからの構想の中で、市内の診療所が中核となっていくという総合病院の立場を話されたが、実際に今、市内の診療所と総合病院は、患者さんの情報だけでなく、お医者さん同士がどういう風につながっているのか。</p> <p>③宍粟市出身で市外に出ておられる先生方と、総合病院や宍粟市は、どのようなつながりをもっているのか。</p>
佐竹院長	<p>医師会の先生方との連携ですけれども、当院の地域連携室で、医師会の先生との間でファックスやメールでやりとりしながら、患者さんの情報を紹介してもらい、あるいはこちらから、通院先の先生に、「こういう状況ですので、お願いします」ということや、またこちらのほうからも情報提供書を書いて送って、一人の患者さんを、あるときはかかりつけの先生が診て、あるときは入院して当院で、というようなことで、情報共有しながら連携しています。</p> <p>それから私も含めて当院の医師の多くは医師会会員になっています。特に私は医師会の役員の一にもなっておりまして、毎月、医師会の役員会がございますが、そこで医師会もいろんな方針やらを、私どももそういう情報を共有させていただいて、そしてその医師会の活動と当院が連携できる部分がありましたら、それに対</p>

	<p>しては協力すると、意思の疎通を図るということで、例えば具体的ですと、今回の、コロナウイルスの流行につきましても、この10月から、医師会の先生方が、発熱外来臨時診療所を立ち上げられて、毎日頑張っておられるんですけども、当院もそれとの連携で、例えば発熱外来に行けないような患者さんは当院に紹介していただいて、当院のほうでいろいろと精密検査をいたすというようなことなど、様々な点で医師会の先生方と意思の疎通を図っております。</p> <p>これからも将来ずっと、こういったやり方が続いていくということです。</p>
<p>福元市長</p>	<p>これまでも宍粟市出身の先生方にお会いして、ぜひ宍粟に、という呼びかけもさせていただきましたが現実はなかなか難しい状況であります。</p> <p>しかし総合病院も含めてですが、数名宍粟市にゆかりのある方に帰ってきていただいているといった動きはありました。</p> <p>それから特に佐竹院長を中心にしていただいて兵庫県との連携の中で、県の養成医に来ていただく、その前段で、学生さんの段階から総合病院と交流したりといろんな形で、宍粟市の総合病院のよさや宍粟市の状況も、いわゆるインターンの段階からつぶさに見ていただいて、卒業後、あるいは研修が終わった後、宍粟市の総合病院に来ていただくといった動きも着実に進めていただいております。そういう関係で、ぜひ医師確保にも努めていきたいところでございます。</p>
<p>参加者</p>	<p>双方向の連携の話に「かかりつけの先生」という言葉が出てきたが、やはり地域の中にかかりつけのお医者さんがいることは必要だ。週に1回2回の診察程度ではかかりつけ医になるにはちょっと難しいのではないか。何とか今の状態が保てるようにお願いしたい。</p>
<p>参加者</p>	<p>黒字になったということについて、すごいと思う。公立病院なんてどこも赤字だと聞いていた。資料では市の予算から、一般会計繰入金4億円が入ってやっと黒字になったということなので、そういう言い方をしたら、素人にはちょっとごまかしに聞こえると思う。何億円ぐらいを入れたら公的医療は適正かという議論の仕方なんじゃないかなと思う。</p> <p>それから、今回、新しい病院の建設費用の話はまだ全然出てないが、懐具合については適正な数字を正直に出して議論してほしいと思う。</p>
<p>船曳次長</p>	<p>まず一般会計繰入金の話ですが、公営企業というのは、市の一般会計とはちょっと経理の仕方が違って非常に見にくい構成になっています。</p> <p>ほかの病院も一般会計繰入金というのは同じようにあるんですが、「赤字部分の繰入れ」という部分と、スライドでも説明しましたが、救急医療や、周産期医療、小児医療っていう、「なかなか黒字が出ない、民間が手を出さないまま撤退している部分」があると思います。そういった部分を維持する場合には、当然経費がかかるので、国のほうも市のほうに地方交付税という形で補助しましょう、ただ、応分の負担は市がもってくださいね、病院事業でそういうことをやるのであれば、同じように負担してくださいねという仕組みの中で、今、一般会計から繰入金をいただいております。</p> <p>宍粟市の場合は、幸い、赤字の繰入れというのは今までございません。ただおっしゃっていただいたように、非常に一般の方には、「結局市から補填もらっているか</p>

<p>参加者</p>	<p>ら黒字じゃないか」ということが、資料だけ見ると出てしまいます。次の基本計画の段階になりますと、2番目に質問いただきました建設費用、この辺も、ある程度概算事業費っていうのが積算できるようになってきます。そのときには、建設費用と財源、また、それを返済するに当たっての診療報酬等の長期のシミュレーションが示すようにできると思いますので、その段階でもう少しわかりやすい資料づくりという形で、次の機会でご説明をさせていただきたいと思います。</p> <p>今日の説明にあったアンケートだが、病院に関する情報はアンケートを取った当時と現在では大分違うと思う。新病院の構想を練るに際して、このタウンミーティングが終わったらもう一度アンケートをとるなどして市民意見をもっと吸収してほしい。もう一度アンケートを取る気があるのかなのか。</p>
<p>船曳次長</p>	<p>今回基本構想ということで、途中段階アンケートを送らせていただきました。この後、基本計画ということで、この基本構想をより具体化したものを、定めることとなります。</p> <p>この基本計画につきましては、パブリックコメントという形で、全ての市民の皆さんから御意見をいただけるような機会をもって、それをアンケートにかえて、計画の中に盛り込めるもの、盛り込めないものということで、また審議をしまして、計画を作っていくということにしております。アンケートは行ないませんが、パブリックコメントという形で、御意見をいただく機会は作っていくということにしております。</p>
<p>参加者</p>	<p>パブリックコメントはアンケートで比べると、回答者の数が限られる。もう一度慎重な議論をアンケートという形で表してもいいのではないのか。実際どれだけの人がそのパブリックコメントに回答したか、我々には分からない。もう一度アンケートを取ってはどうか。</p>
<p>船曳次長</p>	<p>できるだけ多くの方の御意見を聞きたいという部分では、私たちも同じです。パブリックコメントになっていきますと、おっしゃるようになかなか意見が少ないということもありますが、ほかの病院の事例などを見ると、100件近いパブリックコメントが寄せられているところもあります。また、広報誌等を使つての意見集約など検討し、工夫をしていきたいと思つています。</p>
<p>水口次長</p>	<p>昨年実施したアンケートにつきましてはホームページにも載せておりましたし、直接見ていただくという形では各市民局や、図書館にも一時置かせていただいたのですが、余り周知が出来ておらず御存じなかったかもしれません。そういったところは注意していきたいと思つています。(終わり)</p>

\* 発言者の表記は、「〇〇議長」、「〇〇委員」、「事務局」とする。